

1 テーマ

一人一人が認め合い、自分らしさを発揮できる子の育成について

2 テーマ設定の理由または、課題

2年生男子3人は、幼い頃から固定された人間関係で育ってきており、互いにこのような性格の子だとの認識がある。仲間の中には発達支援の特性をもっている子がおり、自分勝手な行動から友達とのトラブルが増えてきた。また、個々の些細な問題行動や課題があり、落ち着きに欠ける行動が目立つ。

望ましい3人の関係を構築し、互いが一人一人のよさに目を向け、自己肯定感が上がるように、個々の課題に寄り添い、自分らしさを発揮して成長できるよう個々への手立てを工夫していきたい。

3 実践内容

- ① 朝の生活時間の確立
- ② 一人一人のよいところを見つける「ひみつの友達」
- ③ 共通の話題づくり（読み聞かせ）
- ④ 保護者との連携

4 成果と課題

① 朝の生活時間の確率

登校すると、学校前の長い上り坂に加え連日の厳しい暑さでぐったりし、教室に入ると床に寝転んで何もしない様子が見られた。

1 テレビにやることを映し、意識させた。

→ 数日は、テレビに映したやることを見ながら行動する様子が見られた。しかし、すぐに元に戻り、声を掛けないと何もやらなくなった。

- ①かばんからにもつを出す。
- ②しゅくだいを出す。
- ③あしたのよていを書く。
- ④やさいに「おはよう」と水をかける。
- ⑤クロームブックにうつ。

2 机の上に「がんばりカード」を貼り、毎日やることを見てやれるようにした。（予定・提出物・野菜・係・発表・給食の6つ）

→ 6つ揃うと、下校前にごほうびシールをもらえることが励みになり、動き出しが少し早くなった。



3 ごほうびシール効果が薄れてきたので、床に寝転がる前に登校したらまず「畑の野菜を見に行こう。」と誘った。

→ 野菜の収穫に時間は掛かるが、無駄な動きが無くなり、朝の支度が少し早くできるようになってきた。

② 一人一人のよいところを見つける「ひみつの友達」

今までの経験で、友達のよいところを見つけて言葉にすることがなかったため、始めた。当初は何を言えばいいのか分からず、躊躇していた。少しずつ「給食を全部食べていて良かったね。」「一輪車の練習を頑張っていたね。」「テストで百点を取ってすごいね。」と声を掛けられるようになった。

③ 共通の話題づくり（読み聞かせ）

毎日季節を意識した絵本を読み聞かせ、教室の後方へ並べてきた。手に取れるところに絵本があるので子供たちで繰り返し読んだり、絵本の場面を思い出し、イメージを共有したりして共通の話題になったりもした。



子供たちのお気に入りの本

「ほしじいたけ ほしばあたけ」シリーズ
「窓ぎわのトットちゃん」



④ 保護者との連携

毎日、学校での子供の様子や頑張ったこと、気になることを書き、子供へ関心をもってもらいたいと知らせてきた。返信のある家庭は決まっており、反応は家庭によりまちまちだった。

どれもクラスづくりの一貫として継続していきたい。

- ①「がんばりカード」は、2学期バージョンとして新しいものを用意していきたい。
- ②「ひみつの友達」は、互いのよいところに目を向け、言葉掛けの種類が広がるような工夫をしたい。
- ③「共通の話題づくり」では、絵本の読み聞かせに加えて、物を作るのが好きな子供たちなので、いろいろな物を作って遊んでいけるようにしたい。
- ④「保護者との連携」では、クラスだよりと並行して毎日地道に成長を伝え、家庭と同方向を向いて育てていけるようにしたい。